

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自立貢献」 ～夢に向かって挑戦し、社会に貢献できる自立した生徒の育成をめざす～	
1	人格の陶冶に取り組む学校（すべての教育活動を通して、社会で自立した人間として力強く生きるための総合的な力（人間力）の育成をめざす）
2	自立した工業人の養成を実践する学校（産業界の変化に対応できる創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
3	健全な社会人の育成を実践する学校（豊かな人間性や基本的な生活習慣を確立した社会人基礎力の育成をめざす）
4	教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し、生徒の成長に組織的に寄与し達成感・充実感がある学校）

2 中期的目標

―「自立貢献」を確立し、生徒の『夢・挑戦』を実現する学校経営―	
1	人間力の育成（基礎学力やコミュニケーション力、規範意識を備え、自立できる生徒の育成をめざす） (1) 社会人基礎力の育成（基礎学力の向上と人間性、基本的な生活習慣の確立） ア 基礎学力の向上を図り、社会人として必要な文書知識や数学的な思考方法などを育成する。（基礎学力テスト結果の向上） イ これからの産業人に必要な知識、技術・技能を融合し、課題を解決していく力、コミュニケーション力、チーム力などを育成する。 ウ 全職員で、基本的な生活習慣の向上と定着を図る取組みを推進し、生徒自らが自己に気づき自ら改善する力を培う。（年間遅刻件数 5 回以上の生徒の割合 令和 6 年度在籍者(5/1 現在)の 20%以下（R 5 25.6%、R 4 23%）～令和 8 年度に 18%以下をめざす。） エ 生徒（会）活動の一層の推進を図るとともに、部活動の活性化をめざす。（挨拶運動の発展、全学年の部活動入部率 令和 5 年度は 42.9%（年度末調査）～令和 8 年度まで <u>42%</u> 以上とする。R 6 から実施） (2) 進路実現に向けたキャリア教育の充実 ア 系統的なキャリア学習の一層の推進を図り、就職基礎能力を育成する。就職希望者の進路保障の実現。就職希望者全員の就職内定率 100%を維持する。（R 5 100%、R 4 100%） イ 企業や労働関係団体等と連携を促進し、インターンシップや企業関係者講演会等の機会を充実し、職業意識や勤労観を高める。 ウ 大学等への進学希望者の進路保障の実現（大学等進学希望者の進学率 100%をめざす。） (3) 人権教育及び支援教育の充実 ア 学校教育活動全体を通して、他者を尊重し自己を大切にする人権意識の向上を図る。（いじめ等の未然防止による重大事象（レベル V）ゼロの継続） イ 支援教育コーディネーター（教育相談）を中心として、支援の必要な生徒への組織的な取組みの充実を図る。
2	工業教育の充実（実践的技能養成重点校としての充実） (1) 専門性向上に向けた取組みの充実 ア 企業等との連携を推進し、各専門系の課題研究等の一層の充実を図る。 イ 資格支援センターのサポート機能と連動し、各専門系、教科等の資格取得の取組みの一層の活性化を図る。（年間ジュニアマイスター取得該当者数 令和 6 年度 50 人以上（R 5 90 人、R 4 71 人、R 3 41 人）～令和 8 年度まで 50 人以上を維持する） ウ 各専門系の各種技能コンテスト等への組織的な取組みを推進し、近畿・全国大会への出場及び上位入賞をめざす。 エ <u>再編整備計画として、令和 7 年度開設予定の工学系大学進学専科の教育課程作成と、中学生やその保護者・中学校教員に対し、その趣旨について周知する。</u> (2) 工業教育の魅力発信 ア ものづくり教育を基盤に小中学校や支援学校の児童生徒に対して、専門教育への興味関心を高める活動の充実を図る。 イ 工科高校の魅力を発信するため、インターネット・メディア・イベントなどを活用した、より効果的な広報活動の一層の推進を図る。（出前授業やワークショップ等を令和 6 年度 2 回以上（R 5 4 回、R 4 2 回）～令和 8 年度まで 3 回以上維持する。）
3	地域との連携 (1) 堺・高石地域の地場産業等との連携を通して、生徒の自己実現をめざした活動の充実を図る。 (2) N P O や各種地域団体との連携を一層深め、生徒会・クラブ活動などを通じた地域貢献をめざす。 (3) 校内防災体制（校内備蓄の推進）の充実を図るとともに地域の防災計画への連動を推進する。
4	教員の資質向上 (1) 主体的・対話的で深い学びの授業の実施（アクティブ・ラーニングやその為の指導方法を充実させる）。全教員の 80%以上がアクティブ・ラーニング型授業をする割合を実授業回数に対して令和 6 年度に 40%以上、令和 8 年度まで 50%以上を維持する。（R 5 86%の教員が 37.2%以上で実施、R 4 39.6%の教員が 30%以上実施、R 3 52.4%の教員が 35%以上実施） (2) 学校組織の活性化とともに、校内研修及び O J T を積極的に推進し教員の人材育成に努める。 (3) 教員相互の公開授業や研究授業の積極的な推進による授業力向上と I C T を活用した教育を推進する。1 人 1 台端末の活用。（I C T 授業活用率 令和 5 年度に 90%以上（R 5 97.7%、R 4 80.1%、R 3 78.1%）～令和 8 年度まで 90%以上を維持する。） (4) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進する。 (5) <u>生徒の事故防止と健康安全教育の推進。</u> (6) 教員 1 人あたりの残業時間月 45 時間以内におさめるよう週 1 日の全校一斉退庁日、部活動休養日の定時退庁を徹底し、教職員の負担軽減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
①R 4 年度から、紙での回答ではなく、フォーム作成ツールを使用したところ保護者の回答率が 50.4%と減少し（R 3 は 76.6%）、昨年度は 56.0%と増加したが、今年度は 54.2%と若干ではあるが減少した。 ②「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している」は、生徒 83%（R 5：77.1%）・保護者 89%（R 5：75.5%）と年々に増加したが、教員の方は 75.9%（R 5：80%）と減少がみられた。その結果から、端末を使いやすい教科での活用頻度が増え、また家庭での活用の場面が増え	【第 1 回】●大学進学専科の募集にあたり、中学校へのアプローチが必須である。●H P による保護者への情報発信が適切にできている。●公立と私立との費用格差について、授業料が無償でもそれ以外にかかる費用を十分考慮しないといけない。保護者にとって重要な要素であり、公立の良さを発信していつてはどうか。●情報の発信については、何を目標とするか改めて考え、目標に応じた手段となっているかを評価すべきである。その際には、堺工科の強みがより伝わりやすくなるよう、文章表現や情報の選別に注意する。今後は生徒目線の情報発信（どういった学びがあるのか、何ができるようになるのか）を重視するとよい。

府立堺工科高等学校

<p>たことが考えられる。</p> <p>③教職員の「生徒の基本的生活習慣が確立してきている」では、R 5：61.5%から 69.4%と増加し、生徒の「遅刻・欠席は減っている」88%（R 5：87%）、保護者も 88%（R 5：87%）も増えており、年間遅刻数一人当たり、目標 3 回のところ、現在 1.66 回と結果にも表れている。「学校生活についての先生の指導には納得できる」という項目においては、保護者の値が R 5：76.5%から 89%と増加し、教員 95.1%(R 5：92.3%)も同様の傾向がみられ、教員の生徒へのきめ細かい指導と保護者への丁寧な説明の成果といえる。</p> <p>④教職員では学校組織に関する診断では、「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の情報共有の場として有効に機能している」が R 4：48.0%、R 5：65.4%、今年度は 75.8%と年々向上している。教員同士の意思疎通がスムーズにできており、共通認識が持っていることが推察され、職場環境の好循環を生みだしていると思われ、診断項目の総計 81%（R 5：73%）に表れている。</p> <p>⑤来年度の重点課題は「生徒の基本的生活習慣の確立」「地域連携の再構築」「学校行事の魅力化」である。</p>	<p>【第 2 回】工学系大学進学専科について、委員の方に幅広く意見や質問を発言していただいた。以下がその内容である。</p> <p>●進学専科の生徒の進路選択では、就職も希望できるか。●大学進学専科という名前ではあるが、高等専門学校への編入も進路選択のひとつであるか。●研究職の人材が少ない。進学専科からそのような人材を輩出してほしい。●進学して研究職をめざす人材も必要である一方、現状の高卒人材の維持も必要である。●生徒自身が課題を発見し取り組む活動が必要である。特に工業系としてエネルギー問題などの社会的な課題も考えてほしい。●進学専科入学後の、専門系への変更が可能であるか。●大学進学前の学力も大切だが、大学入学後に活用できる基礎範囲を確実に教育する内容が望ましい。●データに基づいた判断ができる能力が現場でも必要とされている。●大学で求める人物像として、コンピュータリテラシーや、数学的な論理的思考力や、物事についてなぜそうなるのかを考える思考力などが挙げられる。また、数学・理科に対する苦手意識を克服していることも大切である。</p> <p>【第 3 回】堺工科の魅力発信など、各取組みについて、委員の方に幅広く意見や質問を発言していただいた。以下がその内容である。</p> <p>●ものづくりコンテストの大会を見せるなど、工業のものづくりの広報は実体験を中学生に伝えたほうがよい。●企業が実施する教員向け研修では、一方向的でなく、ディスカッション形式など、双方向に話ができるとよい。●資格取得については、生徒が受け身の状態で取らされているようであれば、取得率向上にはつながらないため、必要性をしっかりと教える必要がある。●地域に根付いた学校であり、今後もあり続けてほしい学校である。●ICT やアクティブ・ラーニングは回数にこだわるよりも、必要性に応じた実施が大切である。●リカレント教育、リスキリング教育など、新たな知識の獲得や学びなおしをどのように取り入れていくか、考えていかないといけない。</p>
---	---

府立堺工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
人 間 力 の育成 (1) 社 会 人 基 礎 力 の育成	(1) ア. 基礎学力の向上	(1) ア・第 1 学年については、数学は習熟度別指導、英語は少人数指導を継続実施するとともに、 <u>デジタルコンテンツの活用等により言語活動を充実させる。</u> ・「朝学」の計画的な実施によって、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。	(1) ア・基礎学力向上に関する学校教育自己診断の肯定率 保護者 80%、生徒 90%、教員：50%以上をめざす。[保護者 78%、生徒 92.6%、教員：34.6%] ・基礎力診断テストの学年平均得点 190 点以上を継続する。(第 2、第 3 学年) [1 年 181.9 点、2 年 187.7 点] イ・新学習指導要領等に係る研修（観点別学習状況の評価研修等）を 1 回以上行う。	保護者 81%【○】、生徒 90.7%【○】教員 50%【○】 第 2 学年点 186.4 点【△】 第 3 学年点 192.7 点【○】 12 月実施【○】
	イ. 主体性の育成	イ・新学習指導要領のめざす観点別学習状況の評価などについての校内研修を実施する。	ウ・年間遅刻件数 5 回以上の生徒を全体の 20%以下にする。8 時 30 分基準 ・年間遅刻件数を一人あたり 3.0 回以下にする。8 時 30 分基準[一人あたり 3.90 回] ・転学者・中退学者・留年者数を 40 人以下（卒業・進級判定会議を基準）をめざす。[転学 23 人、中退 27 人、留年 1 人] ・特別指導件数 20 件以下をめざす。[22 件] ・情報モラルに関する講習会を実施する。	5 回以上遅刻者 25.0%【△】 2037 回、3.75 回/人（1 年 746 回、2 年 516 回、3 年 775 回）【△】 39 人(3 月現在)【○】
	ウ. 生徒指導の充実 (マナー向上含む)	ウ・学校として統一した生徒指導と生活指導部・学年団と連動した指導の徹底による基本的生活習慣の改善を図る。(遅刻指導、特別指導等) ・注意喚起を徹底し未然防止を図る。 ・身だしなみ指導を徹底する。 ・校内飲食指導を定着させる。 ・ <u>スマートフォンなど情報モラル指導を徹底する。</u>	エ・学校生活の満足度に関する生徒の学校教育自己診断の肯定率 90%以上をめざす。[78.4%] ・体育祭及び文化祭のアンケート結果において、満足度に関する項目の肯定率 80%以上を継続する。[体育祭 83.2%、文化祭 84.1%] ・ <u>全体の部活動加入率 42%以上(2 月調査)</u> を継続する。[49.5%] ・部活動の地区大会で 3 位以上の入賞をめざし、近畿大会、全国大会への出場をめざす。[該当なし]	11 件【○】 12 月に実施【○】
(2) キ ャ リ ア 教 育 の充実	エ. 生徒(会)活動の活性化	エ・生徒(会)活動の自主性を高めるよう、活性化を図る。 ・挨拶運動、ボランティア活動等の推進 ・体育祭、文化祭等教科外教育活動を意識的に取組ませる。	生徒 81.1%【△】 体育祭 91.1% 文化祭 92.3%【◎】 45.9%【○】 実業総合体育大会 3 位以上の入賞【○】	生徒 81.1%【△】 体育祭 91.1% 文化祭 92.3%【◎】 45.9%【○】 実業総合体育大会 3 位以上の入賞【○】
	(2) 就職基礎能力の育成・進学希望者の進路保障	(2) ・就職基礎能力(知識、文書力、コミュニケーション力等)の育成を図るとともに、企業理解を深めさせる。 ・面接指導の充実を図る ・志望校見学・試験教科において補習の充実を図り進学試験対策をすすめる。 ・キャリアパスポートの活用を図る	(2) ・卒業生全員の就職・進学先を決定する。 →進路指導に関する学校教育自己診断の肯定率(保護者・生徒・教員の平均) 85%以上を継続する。[92.9%]	・就職 113 名/121 名中(1 次) 124 名/124 名中 100% 進学 35 名/35 名中 100%【○】 ・平均 92%【○】 (保護者 94.6%、生徒 91.2%、教員 90.3%)
	(3) 人 権 教 育、支援 教 育 の 充実	(3) ア・HR 活動、学年・全体集会などを通じて、身近な人権課題を考える機会の充実を図る。いじめ等の未然防止に努めるとともに、組織的な早期対応を図る。 ・障がいのある生徒との共同学習の充実を図る。	(3) ア・いじめ等の人権に関わる問題行動事象の未然防止に努め、早期対応による重大事象(レベル V) ゼロを継続する。[0 件] ・ <u>だいせん聴覚支援学校と共同学習を行う。</u>	【いじめ対策】重大事象 0 件【○】
工 業 教 育 の 充 実 (1)	イ. 支援教育の充実	イ・支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制を継続し、「合理的配慮」をふまえ「個別の教育支援計画」を活用した支援の充実を図る。 ・特別支援教育に係る教員研修の充実を図る。 ・中学訪問を実施し「個別の教育支援計画」の引継ぎと新たに支援を要する生徒の計画の新規作成を推進する。	イ・教育相談体制に関する生徒の学校教育自己診断の肯定率 70%以上をめざす。[70.5%] ・特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケート(研修成果)の肯定率 80%以上をめざす。[100%] ・ <u>入学生徒の全出身中学校へ訪問するなどし、情報交換を行う。[R 6 より]</u>	機械系において 11 月に打ち刃物作製を実施【○】 生徒 73.7%【○】 S S W 7 月 96.8% S C 8 月 92.5%【○】 1 年担任により、3 月～4 月に分担し訪問を行い、情報交換を行った【○】
	(1) ア. 企業等連携による 専門系授業の充実	(1) ア・府教育庁の「企業等連携による実践的能力育成事業」を活用し、各専門系での授業の充実を図る。	(1) ア・専門性に関する学校教育自己診断(保護者・生徒・教員の平均)の肯定率 80%以上を継続する。[87.7%]	平均 88.8%【○】 (保護者 88.6%、生徒 95.6%、教員 82.3%)

府立堺工科高等学校

による 地 域 貢 献		貢献活動を推進する。 ・堺市及び大仙地域の自治会と連携した地域事業への積極的参加。	<u>・地元で開催されるイベントやボランティア活動に参加する。[緑化祭、フラワークラブ等]</u>	緑化祭 10 月参加、フラワークラブ 7 回参加、大仙茶会 2024 に 11 月参加 【○】
(3) 校 内 防 災体制	(3) ア. 地域防災との連携	(3) ア・大仙地区の地域防災活動への参画	(3) ア・災害時における本校の対応について地域と協力し、防災対策体制を整える。	10 月 17 日 防災訓練（地震・津波想定）大仙公園へ避難。警察と連携。小中学校へ合同での実施を呼びかけた 【○】
教 員 の 資質向上 (1) アクティブ ラーニング	(1) ア. 主体的・対話的で深い学び	(1) ア・生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるようにし、授業に対する興味・関心を高める授業を実施する。	(1) ア・全教員の 80%以上がアクティブ・ラーニングの授業の割合を実授業回数に対して 40%以上になるようめざす。[86%の教員が 37.2%以上で実施]	97.1%の教員が 54.3%以上で実施 【○】
(2) 学 校 組 織 の 活 性 化 と 人 材 育 成	(2) ア. 情報共有による組織連携の強化	(2) ア・情報の縦の流れ（職員会議・運営会議）と横の流れ（科系・分掌・学年）の組織的な統一を図る。	(2) ア・学校教育自己診断において教職員の会議等の意識に関する項目の肯定率 40%以上を継続する。[65.4%]	教員 75.8% 【○】
	イ. 初任者等の校内研修の充実	イ・教科指導員と指導教員（首席）の役割分担による初任者校内研修の充実を図る。 ・10 年経験者研修受講者の校内研修の充実 ・初任者（メンティー）と 10 年経験者（メンター）を組み合わせた O J T による資質向上を図る。 ・工業科教員の技術力向上のため、教員が参加できる技術研修を実施する。	イ・初任者に対し指導教員（首席）が校務について 5 回以上の研修を計画する。また、校長は研修を 1 回以上実施する。[R 5 初任者なし] ・10 年経験者研修受講者に対して校長は研修を 1 回以上実施する。[1 回] ・校内技術研修を各系で 1 回以上実施する。[全系で実施] ・校内技術研修に 1 回以上参加した工業の教員の割合について 60%以上を継続する。[59.5%]	5 回実施、校長研修は 3 月に実施 【○】 3 月に実施 【○】 3 月に実施 9 名参加 【○】 12 月に実施 10 名参加（67%） 【○】 12 月に実施 6 名参加、3 月に実施 10 名参加 【○】 1 回以上参加した工業教員の割合 76.7% 【○】
(3) 授 業 力 向上	(3) ア. 授業力向上と I C T 教育の推進	(3) ア・ <u>主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科を超えて学習指導に関する実践事例を共有・研究するため、授業見学月間を設定し、相互の授業研究により授業力の向上を図る。</u> ・グループウェアを積極的に活用し有事における活用が円滑に行えるようにする。 ・1 人 1 台端末を活用した授業を推進する。 ・全学年 H R 教室に設置したプロジェクターなどの I C T を活用したわかる授業を推進する。	(3) ア・授業理解に関する学校教育自己診断（保護者(2)・生徒(19)・教員(17)の平均) の肯定率 80%以上を継続する。[84.0%] ・年 2 回教員間の授業見学を実施する。[6 月と 11 月に見学月間を設定し実施] ・グループウェアを教員は 1 回以上（57.8%以上）H R は各学期で 1 回以上（年 3 回以上）の活用をめざす。[69.3%] ・初任者研修受講者は年間 3 回／人以上、インターミディエイトセミナー、10 年経験者研修、アドバンスセミナー D 研修の受講者は年 1 回／人以上の研究授業を行う。[初任者なし。その他計画通り実施。] ・全教員が各学期に 1 人 1 台端末を活用した授業を 1 回以上行う。[42.2%] ・授業における I C T 活用率 90%以上を維持する。[97.7%]	平均 81.7% 【○】 （保護者 67%、生徒 82.8%、教員 95.2%） 年 2 回実施 【○】 （6 月参加率 3 %、11 月参加率 22.7%） 年 1 回以上 57.1%、【△】 H R で各学期 1 回以上 50% 【△】 10 年経験者 11 月までに実施 【○】 初任者 3 回実施 【○】 74.3% 【△】 97.1% 【○】
(4) 人 権 教 育	(4) ア. 人権研修の充実	(4) ア・学校の実態に応じた人権課題等について精査し、人権意識を高める研修を実施する。	(4) ア・人権教育に関する学校教育自己診断（保護者・生徒・教員の平均) の肯定率 80% 以上を継続する。[89.3%] ・教員向け人権研修の参加率 80%以上をめざす。[7 月 100%、10 月 50.7%] ・教員向人権研修を年 2 回以上実施する。	平均 92.2% 【○】 （保護者 95.2%、生徒 90.9%、教員 90.4%） 7 月 100%、2 月 93.8% 【○】 7 月と 2 月に実施 【○】
(5) <u>事 故 防 止 と 安 全教育</u>	(5) <u>ア. 体育活動中の事故防止</u>	(5) <u>ア. 機材・用具などの日常的安全点検とともに熱中症予防を徹底する。</u>	(5) <u>ア. 学期ごとに校内安全点検を実施し、改善を図り、熱中症予防として行事の運用方法を柔軟に検討する。</u>	学期ごとに安全点検を実施し、改善。 熱中症予防として、行事で休憩時間を長めに設定。 体育の授業では水分補給の時間を確保。
	イ. 安全研修の充実	イ. 食物アレルギー、薬物中毒など理解を深める研修を実施する。	イ. 修学旅行等においては、関係機関と連携して食物アレルギー対策を徹底する。また、 <u>薬物乱用防止教育については関係機関と協力し実施する。</u>	修学旅行で、アレルギー対策を徹底。【○】 薬物乱用防止教育を 1 年 4 月、2 年 6 月実施。 3 年 1 月実施 【○】
(6) 働 き 方 改革	(6) ア. 働き方改革	(6) ア・全校一斉退庁日、部活動休養日の定時退庁を推進し、教職員の業務負担軽減を図る。 ・夏期・冬期ともに学校閉庁日を設定し、教	(6) ア・全校一斉退庁日（水曜日）の定時退庁（17 時 30 分まで）を徹底する。 毎月 20 日の定時退庁推進日と全校一斉退庁日（水曜日）について、年間平均退庁率	84.5%（4 月～12 月）【△】

		職員の年休の取得を促進する。	(17時30分まで)90%以上をめざす。[83.9%]	
--	--	----------------	-----------------------------	--